

# 多数派と少数派

## 少数派への配慮

社会には多数派（マジョリティ）と少数派（マイノリティ）がいます。少数派とは、

- ・LGBT、性的少数者
- ・障がい者
- ・在日外国人
- ・エイズやハンセン病などの感染病者
- ・高齢者、幼児
- ・ホームレス
- ・被差別部落出身者

などがありますが、しばしばこれらの人々の差別問題が取り上げられています。私たちの多くは多数派で、少数派の苦悩を感じることに難しいからです。多数派が正しい情報を知り、正しい判断ができるなら

ば問題ありません。しかし実際は、間違った情報や雰囲気によって判断を誤り、少数派が理不尽な仕打ちを受けることが多くあります。また、多数派が利益を優先し、偏見や差別、人権侵害に苦しむ少数派を抑圧してしまうこともあります。

人は誰しも、ときとして少数派になる可能性があります。少数派の人権を守るため、人の痛みを自分のものとして感じ、自分の考え・行動が人に何をもたらすのかを想像する感性（人権感覚）を身につけることが大切です。また「雰囲気によって誤った判断をする」「利益だけを優先させてしまう」といった、自分の弱いところを自覚し、普段から自分の感じ方について考えてみましょう。

## 少数派と向き合う

多数派の中には、「自分は偏見がない」「差別をしたことがない」からと、少数派の苦悩について深く考えない人や、「差別を見過ごしても生活はできる」と考える人がいます。苦しんでいる少数派を知らないことにし、みんな何も知らない、何も知らされない状況をみれば、差別・偏見は一見なくなつたかのように見えます。しかしそれは多数派にそう見えてい

るだけで、本当は差別・偏見はなくなつておらず、悩んでいる少数派は黙りこもりしかありません。少数派の苦悩を「見て見ぬふり」を



することは、結果として少数派をより苦しめることになるのです。

少数派と向き合ひましょう。少数派が抱える苦しみについて周囲と語り合ひ、学び合ひながら、正しく理解することが大切です。

## みんなが楽しく、豊かに暮らす社会へ

これまでの日常生活では、多数派が優先されることが多くありました。しかし今後は、少数派にも配慮された、みんなが楽しく豊かに暮らせるような社会に変えていくことが求められています。

子どもたちはそれぞれの学校で、誰にとつても優しい社会をつくる意欲を高めるため、人権教育を受けています。

一方大人は、人権教育を受ける機会はあまりありません。しかし大人の人権感覚は、次世代を担う子どもたちへ伝わります。今一度、



自分の人生や人権感覚を見つめ直してみたいかができるでしょうか。

一人ひとりが自分にできること、自分が変われるところを見つけていきましょう。



☎ 教育委員会事務局

人権・同和教育係

0943・32・0093

(内線313)